type-II 中間バンド型太陽電池に向けた GaAsSb/GaAs量子ドットの組成変調

樗木 悠亮¹、庄司 靖²、宮下直也¹、岡田 至崇¹ 1東京大学

<mark>²産業技術総合研究所 太</mark>陽光発電研究センター 先進多接合デバイスチーム

研究の目的 (°1.6 (°1.4 中間パンド型量子ドット太陽電池 energy gap (理論変換効率 63%(最大集光時)[1] 二段階光吸収によりバンドギャップ以下でも光励起 0.8 中間バンドを介した再結合 의 0.6 의 0.6 1.6 2.0 2.4 2.8 CB-VB energy gap (eV) GaAs_xSb_{1-x}/GaAs**量子ドット**(QD) • 長キャリア寿命のtype-II型バンド構造 [2] Max n = 60 %バンド構造をAs組成xで制御[3] CB-VB = 1.42 eV CB-IB = 0.75 ~ 1.42 eV 「中間パンド (IB) 位置 伝導帯 (CB) オフセット

%



結果と考察

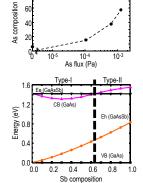
1. GaAsSb**の組成変調**

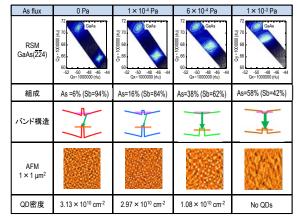
As組成を6~58%の範囲で制御

- As fluxが0 PaでAs組成が0.06
- → チャンバー内の残留Asが混入 or GaAs buffer層のAsとGaSbのSbが置換

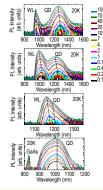
2. GaAsSb/GaAs ODの成長

- As組成増大 (Sb組成減少) によりバンド構造は type-IIからtype-Iへ移行
- As組成増大により格子不整合が低減 → QD密度が減少
- As組成58%ではQDが形成されず





低温PLの励起強度依存性

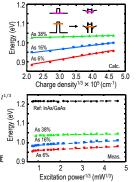


励起強度増大に伴い、 QDのPL発光ピークが

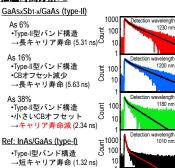
→ type-II型バンド構造



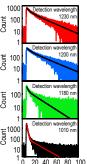
ブルーシフトは励起強度 の1/3乗に比例 [5]



低温時間分解PL



Ref: InAs/GaAs (type-I)



- ·励起波長 405 nm @5 K
- キャリア寿命の傾向は励起依存の傾き の値に比例
- → As組成38%のGaAsSb/GaAs QDは 電子と正孔の空間的分離が弱い

QD	slope	Lifetime, τ_1	Lifetime, τ_2
As 6%	0.0064	5.31 ns	22.5 ns
As 16%	0.0076	5.63 ns	23.2 ns
As 38%	0.0034	2.34 ns	15.1 ns
InAs/GaAs	<0.0001	1.32 ns	13.5 ns

- ■As組成6~58%のGaAsSb薄膜が得られ、量子ドットがAs組成38%まで形成された。
- ■シミュレーションにより、GaAsSb/GaAs 量子ドットのバンド構造はAs組成が38%程度 より増大するとtype-IIからtype-Iへ移行することが示された。
- ■キャリア寿命の長さはQDのPL発光ピークのブルーシフトの傾きに相関が見られた。
- ■As組成38%のQDはキャリア寿命が短く(2.34 ns)、電子と正孔の空間的分離が弱い 可能性を示唆。

参考文献

- [1] A. Luque and A. Marti, Phys. Rev. Lett. 78, 5014 (1997).
- [2] C.-C. Tseng et al., IEEE J. Quantum Electron. 47, 335 (2011).

Time (ns)

- [3] M. Kunrugsa, J. Phys. D: Appl. Phys. 51, 225101 (2018).
- [4] https://www.nextnano.de/nextnanoplus
- [5] N. N. Ledentsov et al., Phys. Rev. B 52, 14058 (1995).

本研究はNEDO高性能・高信頼性太陽光発電の発電コスト低減技術開発(超高効率・ 低コストIII-V化合物太陽電池モジュールの研究開発)の委託の下で行われた。